

2025年7月

ブンミー医師近況報告

ラオ・フレンズ小児病院 アダプト・ア・ドクタープロジェクト


FRIENDS
WITHOUT A BORDER

今回もブンミー（Phounmy）医師の素晴らしい活躍について、ご報告できることをとても嬉しく思います。彼の献身的な活躍は、ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）内にとどまらず、院外へも大きな影響を与え続けています！Phounmy医師は当院で最もスキルが高く経験豊富な医師の一人ですので、複数の重要な役割を担っています。



彼は入院病棟、新生児病棟、ICUなど主要な部署のシフトをカバーしつつ、若手医師の指導と育成にも余念がありません。点滴液の計算、腰椎穿刺の補助、気管挿管の指導、集中治療の管理など、あらゆる場面で彼の専門性に長けた存在は日々の現場に安心感をもたらしてくれます。若手スタッフにとって彼と共に過ごす時間は学びの機会が多く、また、彼自身、教育に関わることをとても楽しんでいるようです。

最近、Phounmy医師は、自身が実際に担当した実際の症例を用いて教育のセッションを主導して行いました。腹痛と嘔吐という日常よく見られる症状で病院に搬送された子供でしたが、彼には何か違和感があり、更に精査を進め、稀で重篤な胆管破裂を発見しました。彼の迅速な対応のおかげで、その子供は緊急手術を受け、その後完治し退院して行きました。これは、彼の臨床における知識とスキルの高さを駆使した診断力の高さを物語る素晴らしい例であり、他の医師たちにとっても貴重な学びの機会となりました。



Phounmy医師はこれ以外にも多くの臨床分野に自信を持って働いていますが、それに驕ることなく、常に成長に意欲的です。現在は、外傷治療や整形外科治療における緊急評価スキルの向上に力を注いでいます。彼は、当病院の院長であるRobert医師や海外からのボランティアたちから受けているクオリティの高い指導に日々深く感謝しています。



前回のご報告時にもお伝えしたように、Phounmy医師は、ラオス北部の郡病院における医療改善を目指す教育プロジェクトを複数年にわたって率いています。この重要なプロジェクトは2年目を迎え、2025年にはすでに4つの郡で実施されています。8月には彼と彼が率いる医療チームは、プークーン郡において農村部で人命を救うために必要な2つの技能-ETAT（緊急トリアージ評価および治療）と新生児蘇生法-について、現地の医療従事者に研修を実施する予定です。

今年10月には、既に研修を受けた4つの郡でフォローアップのためのモニタリング調査を実施し、プログラムの効果を評価するためにデータ収集と結果報告を行います。彼の意欲的な姿勢は他のスタッフのモチベーションへも効果がみられ、チームワークの強化にも繋がっています。

彼は、臨床ケア、教育、公衆衛生を組み合わせることで自身の価値観に合った仕事ができることに感謝しているといつも話しています。彼は継続的なご支援に深く感謝しており、何より皆様の寛大さに心から感謝しています。「皆様のご支援がなければ、全てが実現不可能でした」と彼は言います。「私が天職と感じるこの仕事ができるようサポートしてくださり、とても嬉しいです。皆様のサポートは、一病院のためだけでなく、全てのラオスの子供たちのためです」と改めて皆様からのご支援に感謝の気持ちを話してくれました。

今後も引き続きご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

ラオ・フレンズ小児病院
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN代表 赤尾和美